



鳥瞰. 3棟が隣接してひとつながりの輪郭を描き出している. 建物間のスキマが隣地境界線を示す.



東から農業用倉庫と住居のスキマを見る. 目に見えない隣地境界線を空で可視化し, それを飛び越えながら生活が送られている.



LD. 丘の上に建つので, 眼下にまちを見下ろすことができる.



農業用倉庫と温室は, 仕事場であり庭のようでもある.



南から見る. 積まれた石はロックガーデンとしての実験場も兼ねる.



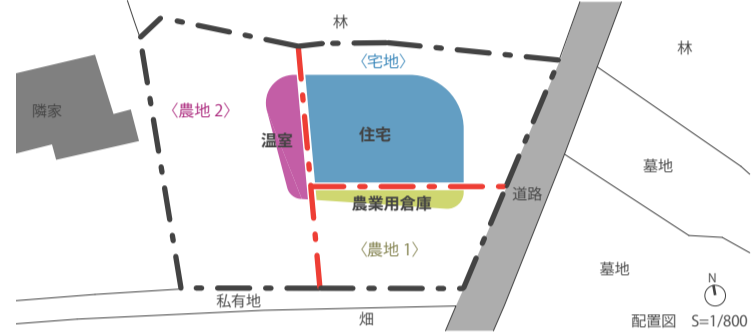
洗面室から農業用倉庫を見る. 職住が溶け合う生活.

House OS 3つ屋根の下

一家で熱帯植物の栽培を行う施主のための二世帯住宅の計画。地方の市街化調整区域では農地や宅地が混在し、それらを一体として所有する事例が散見される。本計画の建主も、隣接する「宅地」「農地（接道あり）」「農地（接道なし）」という3筆の土地からなる敷地を購入した。それらは一見ひとつの土地のようであるが、そこには机上で定められた見えない隣地境界線が引かれている。隣地境界線に着目することで、地方の市街化調整区域における農地と宅地の新たな風景の提案につながるのではないかと考えた。そこで、3つそれぞれの土地の制約に適合した別の建屋（住宅、農業用倉庫、温室）を、それぞれ隣地境界線ぎりぎりに寄せ、一体につながるように建てた。そうすることで、隣地境界線の存在が消え、大きなひとつの土地に建つひとつの家のように暮らせる。一方、それぞれの建屋の土地が異なることを示すため、3棟の間にごく狭いスキマをつくり、光の筋や雨の滴り、風の抜けといった環境による新たな隣地境界線を描き出した。本計画では、土地の制約や用途を超えた生活の繋がり、新しい風景、それにより起こり得る現象を設計した。

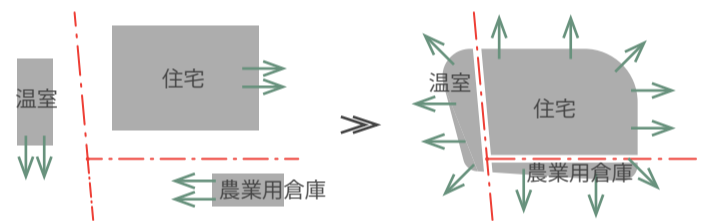
3つの敷地に建てること

当然であるが、住宅は宅地にしか建てられない。また、建築基準法には、1敷地1建物の原則が存在する。本計画は宅地に住宅を、2つの農地に農業用倉庫と温室をそれぞれ建てることで、3つの敷地それぞれにひとつずつ建物を建てることとした。



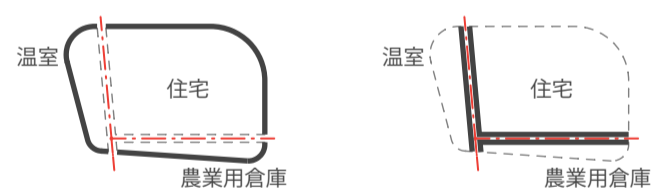
3つ建物が寄り添い、敷地に裏をつくらないこと

ひとつの土地ごとに建物を考えると表裏が出来やすく、それが街並みの形成につながっている。本計画では、3つの建物が寄り添い、3つの土地全方向に開いていく住宅を目指した。また、これにより地方の市街化調整区域における農地と宅地が寄り添う風景のつくり方を提案する。

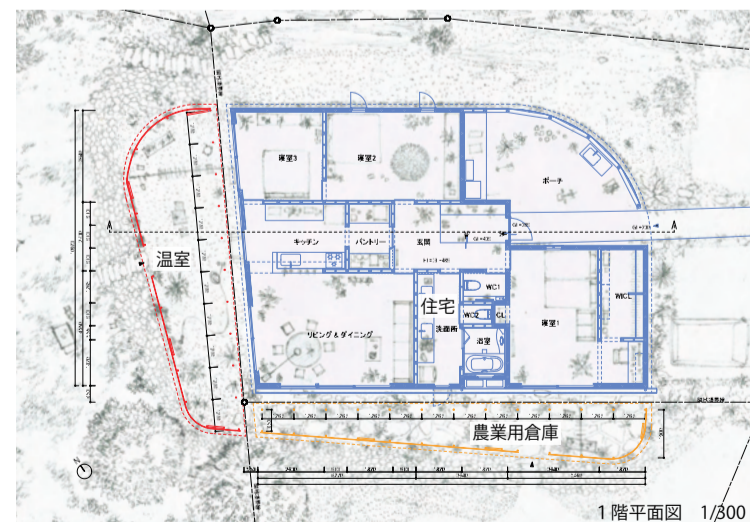


3つの建物があること・1つの建物に見えること

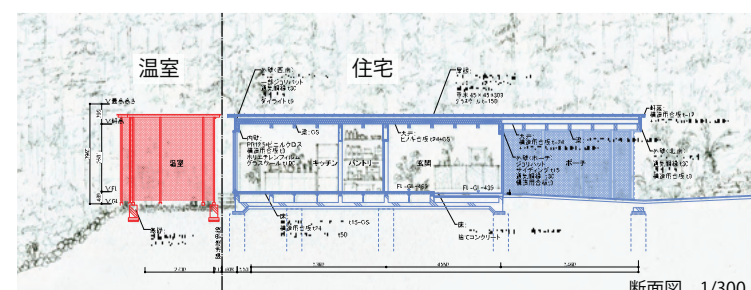
ゲシュタルト心理学の創始者のひとり、マックス・ヴェルトハイマーは形態を知覚する際に働く心理的要因をプレグナンツの法則としてまとめ、7つの群化の要因を挙げている。本計画では、外壁ラインに連続性を与えることでまとまった1つの建物に見えるようにする一方、仕上げはそれぞれ別のものにする（類同性の排除）、3つの建物の独立性を残した。



3つの建物のアウトラインをそろえ、連続させることで1つの建物としてまとめて見えるように計画する。それにより隣地境界線が消えて、1つの敷地に1つの建物が建っているように見える。建築の形状が描く隣地境界線や、3棟の仕上げが異なることで、3つの敷地に3つの建物が建っているようにも見える。



1階平面図 1/300



断面図 1/300